



第 1 章

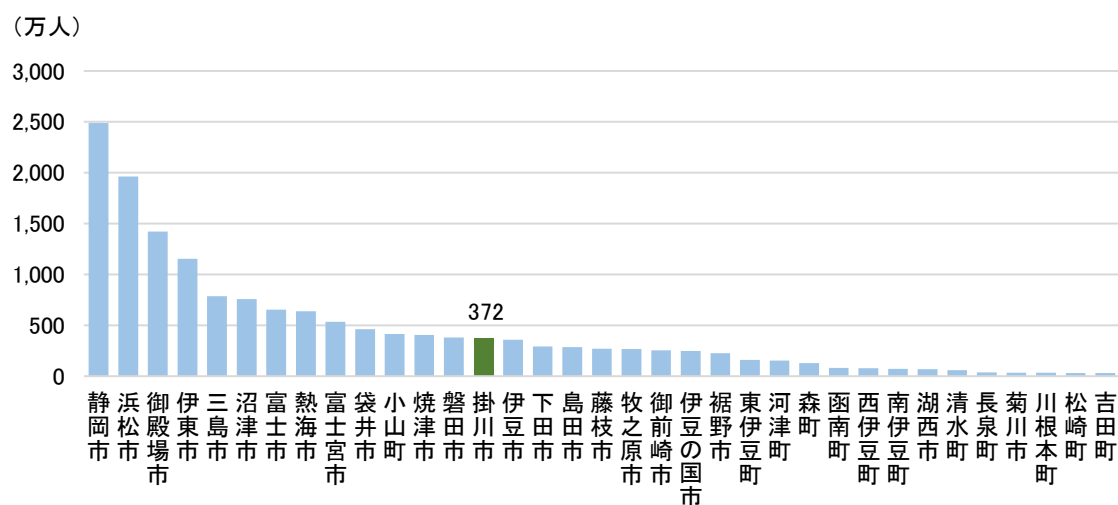
現況と課題

1 本市の観光動向

1) 観光交流客数等

① 観光交流客数の推移

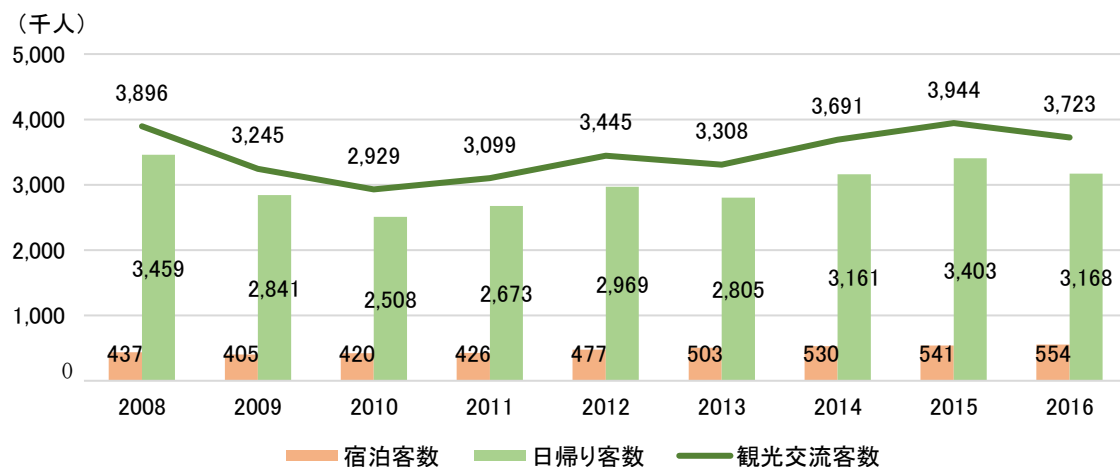
2016(平成 28)年度の本市の観光交流客数は約 370 万人と、県内 14 位となっており、本市の産業のひとつとして今後も育てていく必要があります。



図：県内の観光交流客数の比較

[資料:平成 28 年度静岡県観光交流の動向]

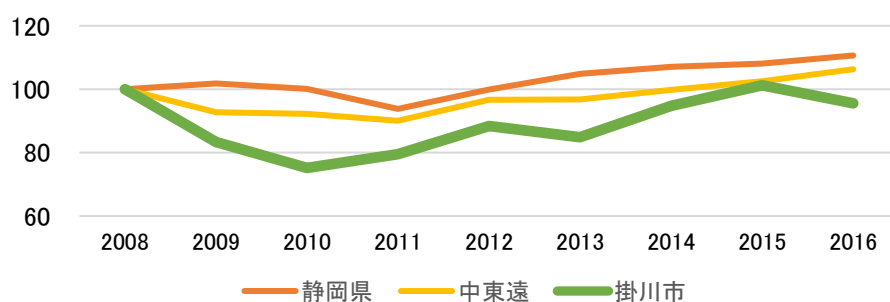
2010(平成 22)年度以降、観光交流客数は概ね増加傾向にあります。観光交流客数のほとんどは日帰り客ですが、宿泊客数が年々増えています。



図：本市の観光交流客数の推移

[資料:平成 28 年度静岡県観光交流の動向]

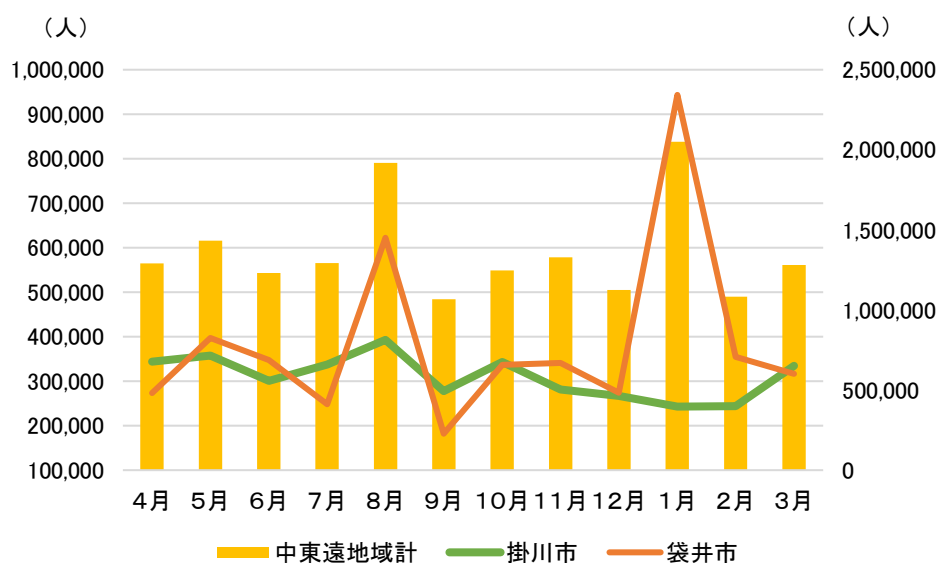
県や中東遠地域と観光交流客数の推移を比較すると、2008(平成 20)年の数値を 100 とした場合、本市は 2010(平成 22)年以降増加傾向が続いているものの、2008 年と比べてやや伸び悩みが見られます。



図：観光交流客数の推移の比較(2008 年の数値を 100 とした指数)

[資料:平成 28 年度静岡県観光交流の動向]

2016(平成 28)年度の月別観光交流客数をみると、隣接する袋井市に比べて顕著なピークはありませんが、本市では8月が 39 万人と最も多く、12 月～2月の冬季の集客力がやや低い状況です。



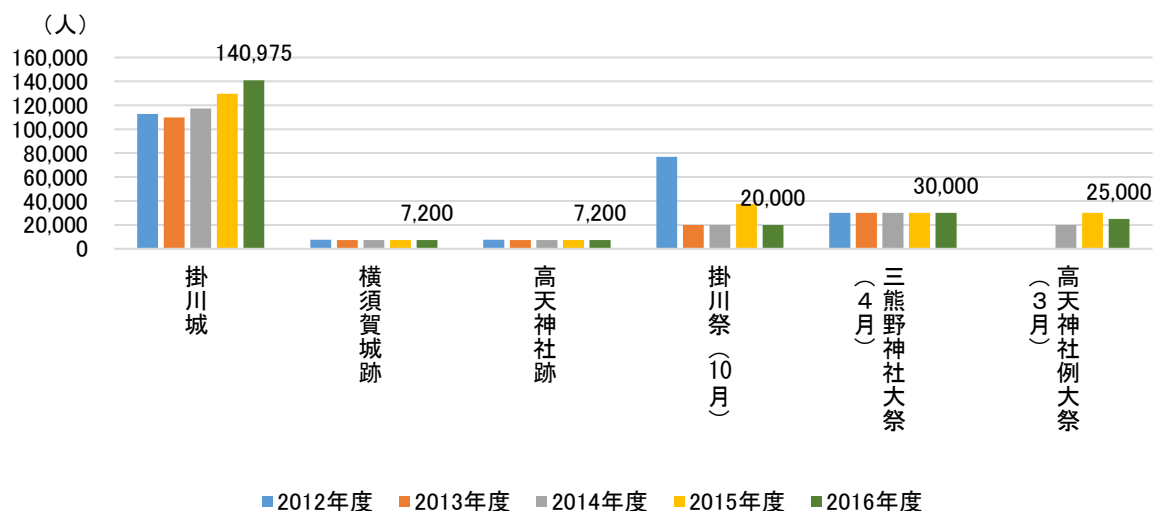
図：2016 年 月別観光交流客数

[資料:平成 28 年度静岡県観光交流の動向]

②掛川三城の観光交流客数

掛川城の観光交流客数は近年増加傾向にあり、2016(平成 28)年度は年間約 14 万人となっています。横須賀城跡、高天神城跡については、どちらも近年約7千人が訪れています。

また、それぞれのお城周辺で行われる祭礼にも多くの人が訪れています。掛川城下での掛川祭は、2012(平成 24)年度及び 2015(平成 27)年度は3年に1度の「大祭」ということもあって、例年よりも観光交流客数が伸びています。

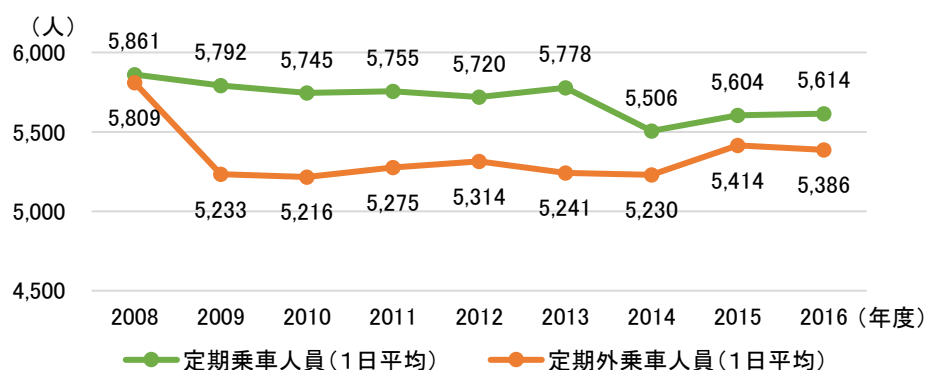


図：掛川三城の観光交流客数 [資料:市資料]

・三熊野神社大祭は横須賀城跡周辺、高天神社例大祭は高天神城跡で行われる。

③JR 掛川駅の乗車人数

JR 掛川駅の定期外乗車人数(1日平均)をみると、2016(平成 28)年度は約 5,400 人の方が、駅を利用して、観光、ビジネス、ショッピングなどで中心市街地に来訪しているものと考えられます。

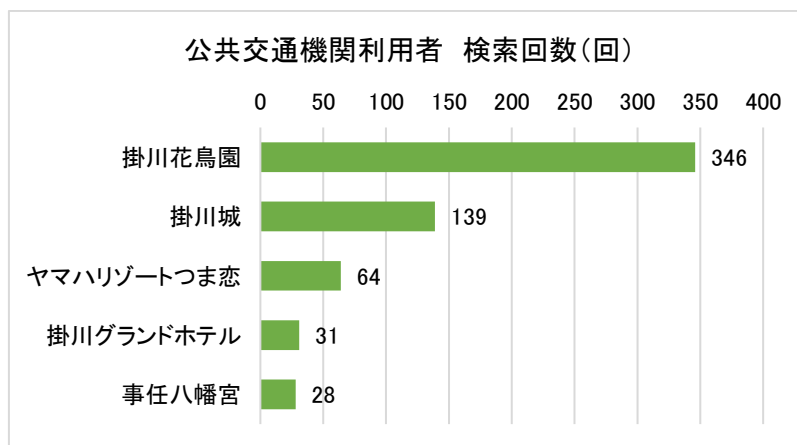
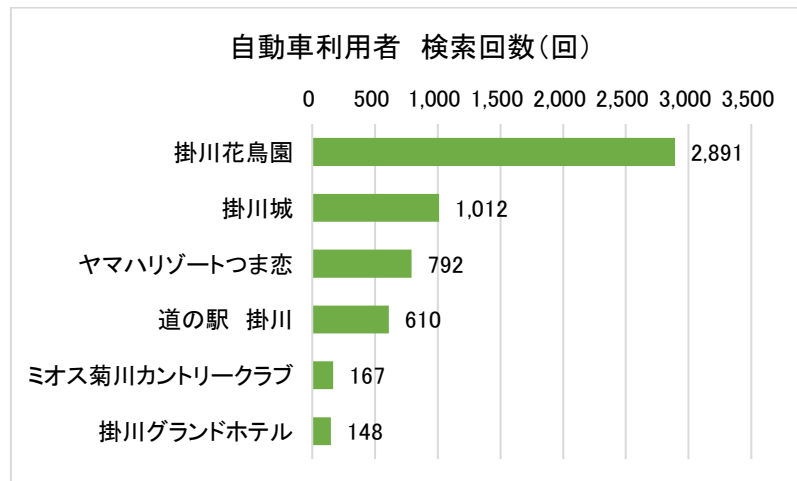


図：JR 掛川駅の乗車人数の推移

[資料:平成 29 年度版 掛川市統計書]

④市内スポットの目的地検索回数

2017(平成 29)年の休日における市内スポットの目的地検索回数をみると、自動車利用者、公共交通機関利用者ともに、掛川花鳥園の検索回数が最も多く、市外から多くの人が訪れていると想定されます。



※「ヤマハリゾートつま恋」は 2017 年「つま恋リゾート彩の郷」としてリニューアル。

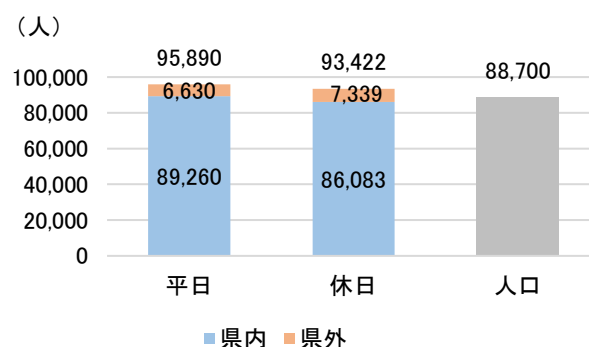
図：市内スポットの目的地検索回数(2017 年、上位)

[資料:株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」より地域経済分析システム(RESAS)作成]
 注) 検索回数は、同一ユーザの重複を除いた月間のユニークユーザ数。

⑤滞在人口

本市の2018(平成30)年の休日の滞在人口(市外から来ている15歳以上80歳未満の人口)をみると、本市の人口88,700人(国勢調査による人口総数114,602人のうち15歳以上80歳未満の人口)に対して、約93,400人が滞在しています。そのうち県外からの滞在人口は約7,300人(7.6%)です。

県外からの滞在人口が多くなると、宿泊や外食など本市で使ってくれる金額が増えると期待できます。

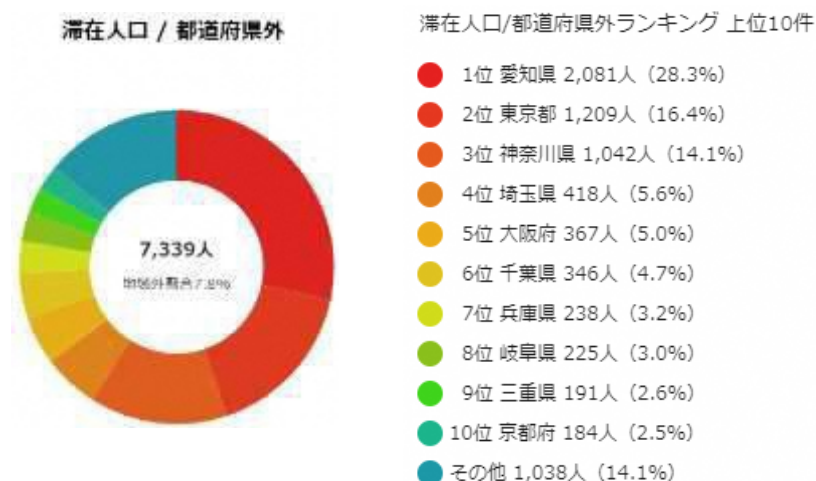


図：本市の2018年滞在人口(8月、14時、15～80歳)

[資料:株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」及び総務省「平成27年国勢調査」より地域経済分析システム(RESAS)作成]

注)滞在人口とは、指定地域の指定時間に滞在していた人数の月間平均値(平日・休日別)を表している。

県外からの滞在人口のうち、愛知県から訪れる人が最も多く、次いで東京都、神奈川県となっています。

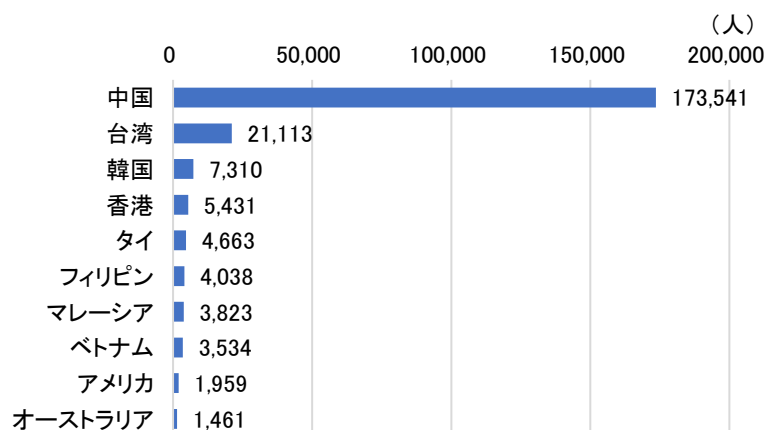


図：本市の2018年滞在人口のうち県外の内訳(8月、14時、15～80歳)

[資料:株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」及び総務省「平成27年国勢調査」より地域経済分析システム(RESAS)作成]

⑥訪日外国人旅行者の状況(静岡県)

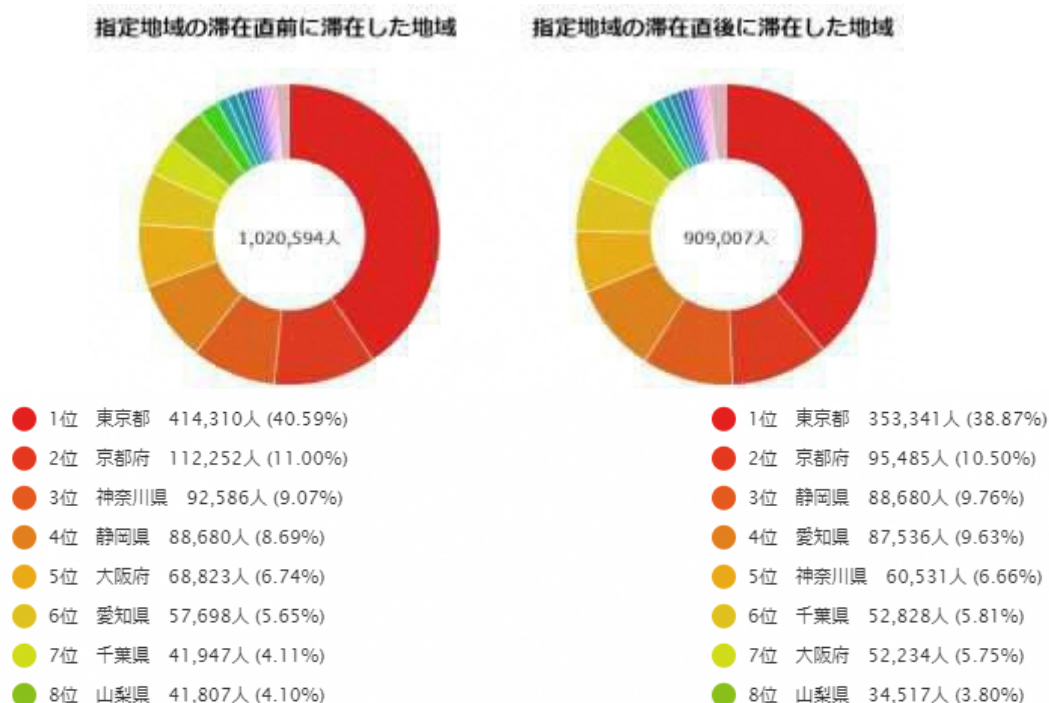
静岡県における国・地域別滞在者数を見ると、中国が圧倒的に多く、次いで台湾、韓国、香港といったアジア圏が上位となっています。



図：静岡県 2017年1-3月期 国・地域別訪問者数

[資料:観光庁「訪日外国人消費動向調査」、日本政府観光局「訪日外客数」より地域経済分析システム (RESAS) 作成]

静岡県訪問の際の直前・直後の滞在地域を見ると、東京都が最多で、次いで京都府となっています。

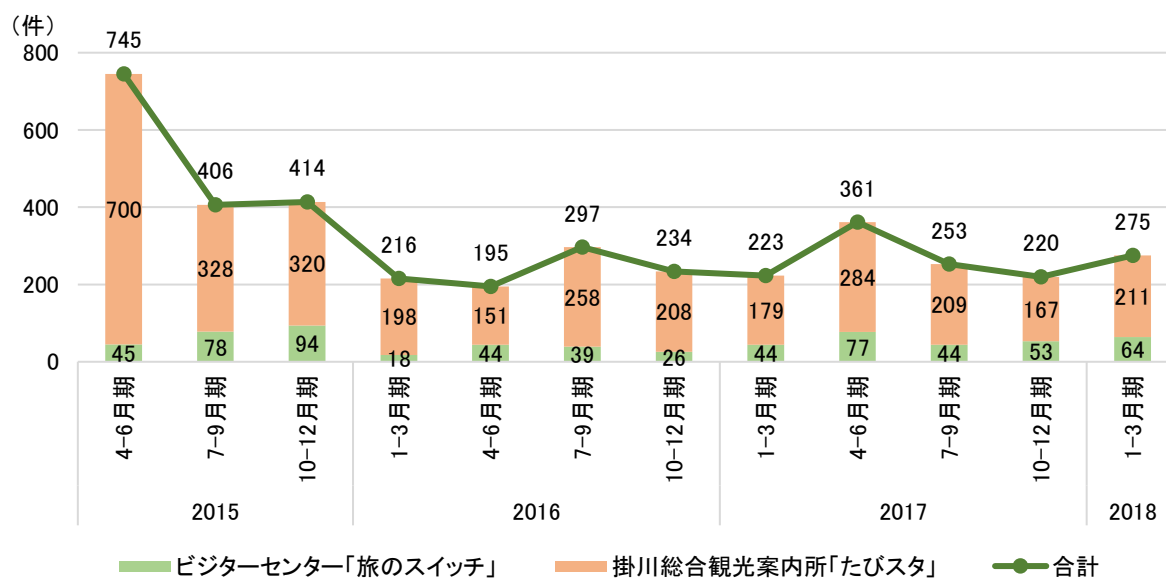


図：静岡県 2016年外国人滞在者移動相関分析

[資料:国土交通省「FF-Data(訪日外国人流動データ)」より 地域経済分析システム(RESAS) 作成]

⑦訪日外国人旅行者の状況(本市)

ビジターセンター「旅のスイッチ」及び掛川総合観光案内所「たびスタ」での外国人対応件数を見ると、2018年1-3月期の件数は275件で、2016年の同時期の216件と比較して27%増加しました。



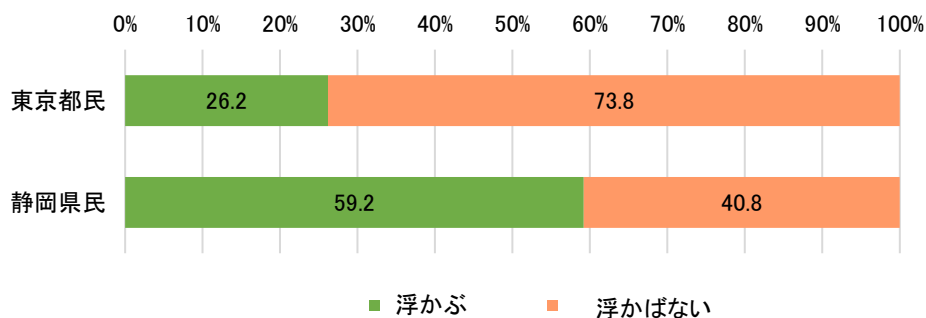
図：ビジターセンター「旅のスイッチ」及び掛川総合観光案内所「たびスタ」の外国人対応件数

[資料:市資料]

2)市外の人から見た本市のイメージ・評価

①掛川市のイメージ

東京都民、静岡県民を対象に、「掛川市」のイメージが浮かぶか聞いたところ、静岡県民の6割が「掛川市」のイメージが浮かぶのに対して、東京都民の7割以上はイメージが浮かばないと回答しています。観光先として選ばれるためには、まずイメージが浮かぶことが重要です。



図：掛川市のイメージ(「掛川市と聞いたときに、何かしらのイメージが頭に浮かびますか。」)

[資料:掛川緑茶振興計画市場調査業務調査報告書(2017年2月)]

・調査は、2016年9月～2017年2月、東京都民2,500人、静岡県民500人を対象に、Webアンケート方式によって行われたもの。

掛川市のイメージが浮かぶと回答した東京都民に、具体的にどのようなイメージが浮かんだか聞いたところ、自由記述のなかの出現頻度が多い単語は「お茶」が最も多く、次いで「掛川城」となっています。

順位	キーワード	出現頻度
1	お茶	185
2	掛川城	75
3	サッカー	61
4	茶畑	38
5	つま恋	28
6	花鳥園	23
7	新幹線	23
8	掛川茶	20
9	美味しい	20
10	温泉	15

図：具体的なイメージ

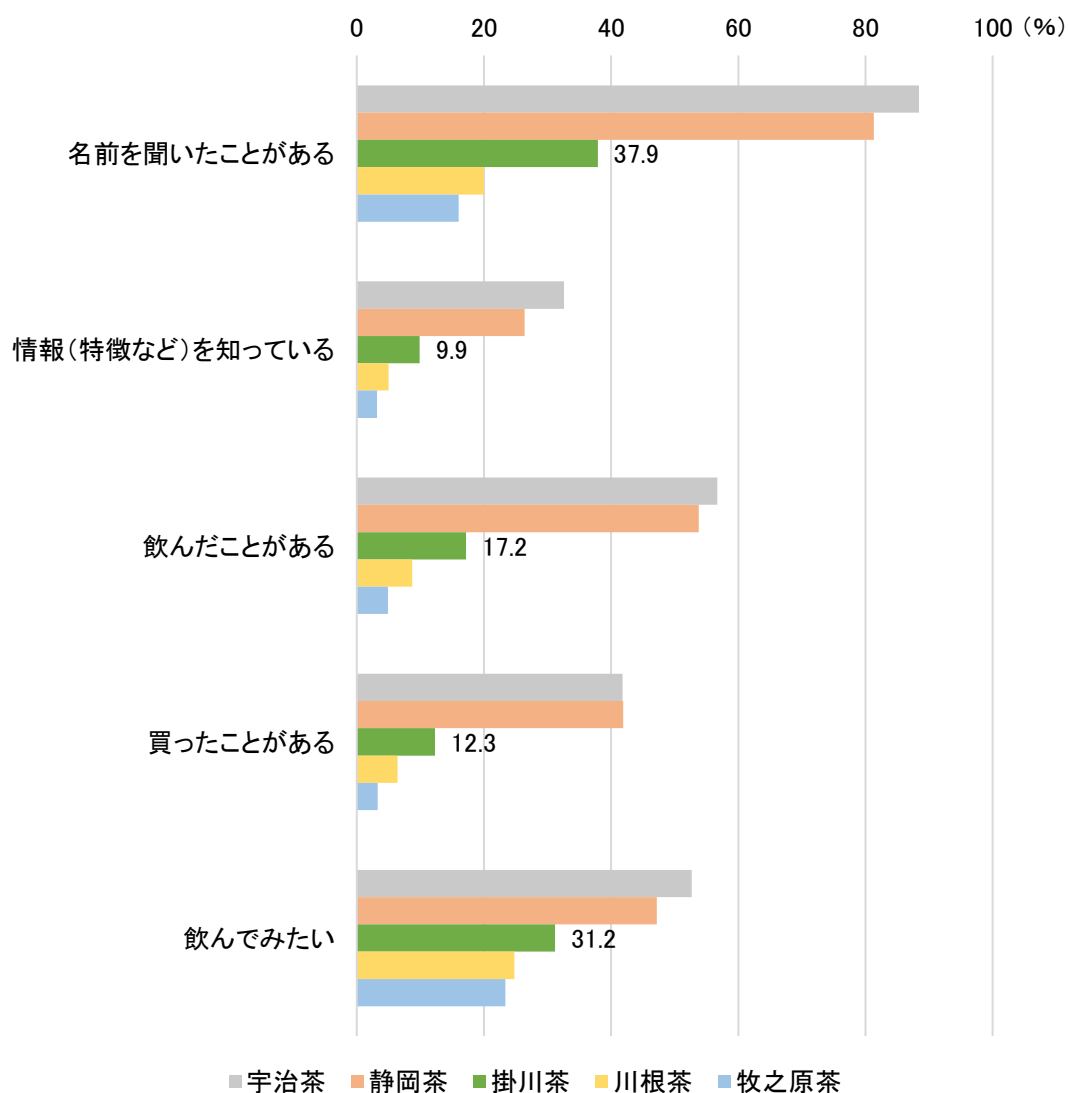
(東京都民対象、「具体的にどのようなイメージが頭に浮かびましたか。自由にご記入ください。」)

[資料:掛川緑茶振興計画市場調査業務調査報告書(2017年2月)]

・調査は、2016年9月～2017年2月、東京都民2,500人、静岡県民500人を対象に、Webアンケート方式によって行われたもの。

②掛川茶の知名度

東京都民を対象に、「掛川茶」の名前を聞いたことがあるかなど、掛川茶のブランド力について問いかけたところ、「名前を聞いたことがある」の回答率は4割となっており、「宇治茶」「静岡茶」に比べて知名度は低いものの、「川根茶」「牧之原茶」に比べるとよく知られています。



図：掛川茶の知名度など

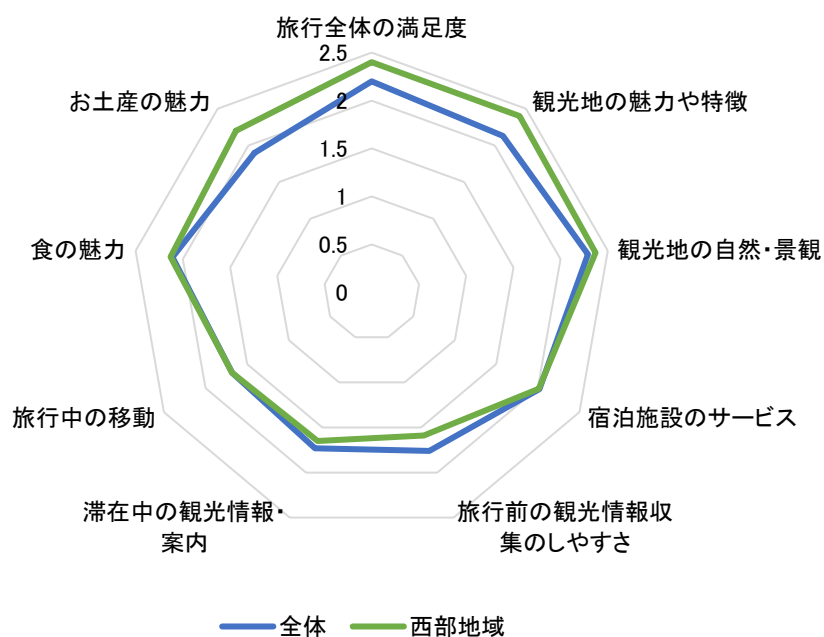
[資料:掛川緑茶振興計画市場調査業務調査報告書(2017年2月)]

・調査は、2016年9月～2017年2月、東京都民2,500人、静岡県民500人を対象に、Webアンケート方式によって行われたもの。

③旅行者満足度(静岡県)

旅行の満足度を点数化して評価したところ、本市を含む西部地域で「観光地の魅力や特徴」、次いで「旅行全体の満足度」、「観光地の自然・景観」が県全体に比べて満足度が高い傾向がみられます。

一方、「旅行前の観光情報収集のしやすさ」は県全体に比べて満足度が低い状況となっています。



図：旅行者満足度

[資料:平成 28 年度静岡県における観光の流動実態と満足度調査]

注) 西部地域とは、磐田市、掛川市、袋井市、菊川市、森町、浜松市、湖西市。

注) 「大変満足」:3、「満足」:2、「やや満足」:1、「やや不満」:-1、「不満」:-2、「大変不満」:-3とする
平均階級値により、満足度に関する全9項目を一覧比較。

2 本市の主な地域資源

1) 自然・四季

本市には、北は八高山と大尾山、栗ヶ岳^{あわがたけ}の峰から南は遠州灘まで、雄大な自然が広がり、温暖な気候にも恵まれ、1年を通じてアウトドアなどが楽しめます。

①山

本市北部には、南アルプス最南端の山地である八高山をはじめ、遠州七不思議の一つである「無間の鐘」伝説で知られる栗ヶ岳などの緑豊かな山林が広がっており、美しい自然資源が数多く残されています。また、本市中央部には、なだらかな小笠山丘陵地が位置しており、学術的にも価値の高い自然植生地が残されています。



栗ヶ岳ウォーキング

②海

本市南部の雄大な白砂青松が続く遠州灘は、海岸一帯が御前崎遠州灘県立自然公園区域に指定されています。サーフィンや釣りなどのマリレジャーを楽しむ方も多くいます。砂浜では、堆砂垣や風紋、雄大な海原、水平線へ沈む夕日などを眺めることができます。また、地域住民が造成した「斜め海岸林」は国内でも珍しい景観です。



遠州灘沿岸の斜め海岸林

③農地、ため池

市街地の周辺に広がる水田や茶畑は、四季の営みを感じさせる田園風景や茶園風景を創り出しています。また、本市には地形特性を活かして多くのため池が築造されてきました。現在はため池が親水公園に再整備されるなど、身近な憩いの場・レクリエーションの場として多くの市民に利用されています。



田ヶ池

④花

掛川城南の逆川沿いのカケガワザクラ(掛川桜)
(p135 参照)をはじめ、大浜公園やさくら咲く学校、居
尻キャンプ場、栗ヶ岳など、多くの桜の名所がありま
す。中新井池公園(大淵)では珍しい緑の桜「御衣
黄」(p135 参照)、田ヶ池(中)では河津桜を見ることが
できます。また、横須賀城跡や龍尾神社(下西郷)
のウメ、加茂荘花鳥園(原里)の花菖蒲、本勝寺
(川久保)のアジサイや山々の紅葉など、花や木を
通じて四季を楽しむことができます。



掛川桜と掛川城

2)歴史・伝統文化

本市には、三城をはじめとする史跡の他、歴史的に価値の高い建造物が数多く現存し、祭
りや行事などの歴史や伝統を反映した活動が現在も行われており、各地で地域固有の風情を
感じることができます。

①掛川城とその周辺

城下町・宿場町の歴史を伝える街並みが残るなか、
秋の掛川祭では屋台、手踊り、獅子舞などが見られま
す。掛川祭は7つの神社の氏子が参加する合同祭礼
で、中でも龍尾神社、神明宮、利神社の祭礼は、江戸
時代から続いています。3年に一度の大祭のときには、
瓦町の「かんからまち」などの三大余興が登場します。



瓦町の「かんからまち」

②横須賀城跡とその周辺

横須賀城の城下町だった横須賀街道には、由緒ある神社や風情ある建造物が建ち並んでいます。春に行われる三熊野神社大祭では、子授けや神輿渡御等の神事に加え、普段は静かな横須賀街道の街並みを、江戸天下祭の流れをくむ祢里(山車)が、三社祭礼囃子の名調子に乗って練り歩きます。



三熊野神社大祭・千秋楽

③高天神城跡とその周辺

土方・中・大坂地区には、国指定史跡の高天神城跡と6つの砦、城を守護する神社などが残っています。高天神社の例大祭、小笠神社の矢矧祭、中・八坂神社の祇園祭といった個性豊かな祭礼が行われ、祇園祭については平安時代から続いています。



高天神社例大祭

④日坂とその周辺

旧東海道日坂宿には、旅籠などが建ち並ぶ中、江戸時代から事任八幡宮例大祭が行われています。軒花で彩られた風情ある街並みの中、絵巻に残る神輿渡御などの伝統的なしきたりが引き継がれています。



事任八幡宮例大祭

⑤東山地区とその周辺

本市は全国屈指のお茶処としても知られ、お茶の生産は、江戸時代までさかのぼります。特に東山地区とその周辺では、栗ヶ岳にある「茶文字」のシンボルのもと、丘陵地を利用した茶畑と明治期から残る農家住宅がモザイク状に点在しており、茶農家による茶への感謝と、伝統的な茶草場農法が脈々と受け継がれています。



東山地区に広がる茶畑

⑥大日本報徳社建造物群とその周辺

明治維新前後に、倉真^{くらみ}の岡田^{きへいじ}佐平治と良一郎が、掛川藩の復興事業として報徳運動を広め、農村生活や庶民教育を向上させました。大日本報徳社建造物群や倉真掛川報徳神社は、市民の精神やまちづくり活動の根底にある報徳の教えを象徴するものとして大切にされ、市民や事業者により維持管理活動が行われています。



報徳図書館

3)食・食文化

お茶をはじめ、旬の野菜や果物、歴史ある料理や菓子、地酒など、土地柄を活かして、さまざまな味を楽しむことができます。味覚狩りや地域間交流を通じた6次産業ビジネスも展開されています。

①掛川茶

全国有数の茶産地であり、仕上げに蒸し時間を長くとる「深蒸し」の製法がとられ特産となりました。また、本市をはじめ周辺市町で行われている、生物多様性を保全する伝統的な農法「静岡の茶草場農法」(p136 参照)が世界農業遺産に認定されました。



掛川高級ブランド茶「天葉」

②農畜産物

温暖な気候を活かして、トマト、芽キャベツ、メロン、イチゴ、サトウキビ、キウイフルーツ、各種かんきつ類などが生産されています。また、県内有数の酪農地帯で、市内の学校給食で出される牛乳は掛川産です。



キウイフルーツ

③菓子・料理等

丁葛^{ちようくず}(葛粉)、自然薯・いも汁といった山の恵みを感じる食材や料理、子育て飴、わらび餅、羊羹といった地域の歴史を感じる菓子があります。また、歴史ある日本酒の蔵元、クラフトビール醸造所があり、良質の地酒もつくられています。



掛川いも汁

4)その他

掛川花鳥園やつま恋リゾート彩の郷^{さいのさと}などのテーマパーク、キャンプ場、二の丸美術館や資生堂アートハウスなどの美術館、山里の趣のある・倉真^{くらみ}・法泉寺^{ほうせんじ}などの温泉、22世紀の丘公園やシートピアなど魅力ある行楽地があります。



倉真温泉

3 掛川市観光基本計画の評価

平成 20 年に策定した「掛川市観光基本計画」では、本市の観光政策のあり方について考えをまとめ、観光の面でも本市を大きくアピールするため取組を進めてきました。

①魅力的な情報発信機能の充実

○市民参画にむけた情報発信

市民が継続的に参加できる、未来のまちづくりに繋がるアートイベントとして「かけがわ茶エンナーレ」(p135 参照)を開催したほか、シティプロモーション市民協働会議を設立し、市民、企業、行政など協働力による情報発信に取り組んでいます。



かけがわ茶エンナーレ

○市外に向けた情報発信

HP や SNS などのツールを利用した観光情報発信のほか、シティプロモーションサイト「掛川物語」の立ち上げや、「輝くかけがわ応援大使」(p135 参照)による掛川の魅力発信、「掛川お茶大使」(p135 参照)による掛川茶の全国 PR、市公認キャラクター「茶のみやきんじろう」の活用、掛川城のライトアップ、観光エージェントへの PR、訪日外国人向けの人気サイト「ジャパンガイド」の動画の掲載等を実施しました。

②おもてなしの心を伝える受入体制の充実

○適切な案内情報の提供

掛川総合案内所「たびスタ」、ビジターセンター「旅のスイッチ」、「掛川南部観光案内処」の整備、観光マップの充実、多言語ウェブサイトの公開等に取り組んでいます。

○ホスピタリティの向上

「飲食店の外国人受入準備セミナー」や郷土の偉人について学ぶ検定の実施、掛川城周辺の施設をめぐる「掛川まる得パスポート」(p135 参照)の企画販売等を行っています。



たびスタ

③地域資源の整備・活用

○歴史資源の保全・活用

歴史的風致を維持・向上させるため「掛川市歴史的風致維持向上計画」(p137 参照)を策定したほか、都市計画法や景観法を活用して城下町や宿場町の街並み整備・誘導を進めています。

○食の開発と活用

農産物直売所に対する地元農産物の6次産業化の支援、互産互消(p135 参照)の推進による県内外への特産物の発信等を行いました。

○海岸や山など自然資源の活用

清掃活動を兼ねた海洋スポーツ体験会の実施、ハイキングコースの市ウェブサイトでの発信、明ヶ島^{みょうがしま}キャンプ場のリニューアル等を行いました。

○スポーツ資源の活用

掛川・新茶マラソン等のスポーツイベント、姉妹都市とのスポーツ交流、ラグビーワールドカップ 2019 の開催に向けたPR 活動等を実施しています。



掛川・新茶マラソン

○掛川ならではの資源の活用

アート鑑賞のまちめぐりプログラム、葛布の振興を図る展示会、軽便鉄道の線路跡ウォーキング等を行っています。



葛布製品の展示会

④広域連携の推進

JR掛川駅と富士山静岡空港を結ぶシャトルタクシーのPR のほか、2019 年春に開催される静岡デスティネーションキャンペーン(DC) (p136 参照)を機に、中東遠地区(p136 参照)で連携し、広域事業を推進しています。

4 関係団体のこれまでの取組

1) 県・広域の団体

①(公社)静岡県観光協会

静岡県の観光振興の中核的な組織として、県内の観光振興等のため、各種団体と連携し、地域の魅力を発信しています。

【最近の動き】

- ・国内観光振興について、2018 年度から3年間にわたって、静岡デスティネーションキャンペーン(DC)を展開しています。
- ・総合案内パンフレットの発行、静岡県観光ホームページ「ハローナビしずおか」のアクセス向上等を実施しています。
- ・観光案内業務について、本会本部・東京・名古屋・大阪の各観光案内所において、旅行会社、マスコミ、一般観光客などへの観光情報の提供や、県内各地域が実施する地域の魅力発信活動の支援を行っています。

②静岡ツーリズムビューロー(TSJ)

外国人観光客誘致のための中核組織として、県が主体となって、(公社)静岡県観光協会内に設置した、全県域を対象エリアとする日本版DMO(p136 参照)。インバウンドについてのマーケティングとマネジメントを行い、世界の旅行者から選ばれる観光地域づくりを進めています。

【業務内容】

- ・マーケティング調査、戦略策定
- ・データ分析に基づく戦略的プロモーション
- ・ワンストップ窓口の設置、運営
- ・県内各地域のDMOへの支援(人材の育成、専門家派遣等)

③静岡県西部地区観光協議会

西遠、中東遠の行政、観光関連会社、関係団体で組織し、静岡県大型観光キャンペーンへの参加、イベント出展等を通じ、西部地区のPR活動に取り組んでいます。

④静岡県西部地区観光協議会中東遠地区

中東遠5市1町で組織し、首都圏の旅行会社訪問、ファムツアーの実施、イベント出展等を通じ、中東遠地区のPR活動等に取り組んでいます。

⑤静岡遠州観光ネットワーク

中東遠5市1町の観光協会で組織し、DC への中東遠部会としての参加、グルメスタジアムや自転車イベントのほか、台湾の旅行博への出展など海外セールスにも取り組んでいます。

⑥富士山静岡空港周辺地域観光振興研究会 (p137 参照)

空港周辺の6市2町で組織し、富士山静岡空港からの就航先である北海道や台湾への観光プロモーション活動のほか、イベント出展等を通じて空港を活用した魅力の情報発信に取り組んでいます。

⑦天竜浜名湖鉄道

安全・安定した列車運行の確保・継続を基本としたうえで、大河ドラマ「おんな城主直虎」に関する連携企画を行いました。また、沿線の観光地を巡るウォーキングイベントの開催、イベント列車の運行を行っており、天浜線内の5つの駅ではレンタサイクルを営業しています。

2)市内の団体

①掛川観光協会

JR 掛川駅南口のビジターセンター「旅のスイッチ」、掛川総合観光案内所「たびスタ」、「南部観光案内^{どころ}処」に観光協会職員が常駐し、掛川の観光や交流に関する情報を案内しています。また、掛川観光情報のウェブサイトを運営するほか、各種イベントを主催し、地域の魅力発信にも取り組んでいます。



「旅のスイッチ」

<掛川支部>

納涼まつり、時の記念日、掛川大祭等の各種イベントを開催するほか、季刊誌を発行しています。

<大東支部>

高天神社例大祭での炮術演武、だいとう・おおすか軽便ロマンウォーク等の各種イベントを開催しています。

<大須賀支部>

遠州横須賀ちっちゃな盆踊り、遠州横須賀凧揚げまつり等の各種イベントを開催しています。

②掛川商工会議所・みなみ商工会

市内商業の紹介宣伝に取り組み、産業案内のパンフレット等を発刊して外来客の誘致を行っています。2018年度の重点テーマとして、観光振興、まちなかの賑わい創出(商工まつり及びシティプロモーション等)を掲げています。

3)市民団体

地区まちづくり協議会(p136 参照)のなかには観光振興につながる活動を計画しているところも少なくなく、宿場町の街並みを活かしたアート展「GAW展」(日坂地区)、天浜線駅へのイルミネーション飾りつけ(原谷^{はらや}地区)等が展開されています。

倉真地区では、2017年の「かけがわ茶エンナーレ」をきっかけに、地域住民が中心となって、粟ヶ岳山麓の「里山めぐり」が展開され、いも汁づくり等の体験プログラム、地元の茶で観光客をもてなす縁側カフェ等を実施しました。

横須賀地区では、地元住民を中心とした「遠州横須賀倶楽部」が「遠州横須賀街道ちっちゃな文化展」(p136 参照)を毎年開催しており、街並みを活かしたアートイベントとして定着しています。

5 上位計画及び関連計画

①観光立国推進基本計画(国)

訪日外国人旅行者の増加に伴い、観光は、国の経済を支える産業へと成長しつつあり、また地方創生への切り札として認識されています。

観光立国推進基本法に基づき、観光立国の実現に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、平成 29 年3月 28 日に新たな「観光立国推進基本計画」が閣議決定されました。

この計画は、平成 32 年までに、1)国内旅行消費額を 21 兆円にする、2)訪日外国人旅行者数を 4,000 万人にする、3)訪日外国人旅行消費額を8兆円にする等の目標を掲げるとともに、これらの達成のために政府全体として講ずべき施策等について定めています。

観光立国推進基本計画(概要)一部抜粋

●観光立国の実現に関し、政府が総合的かつ計画的に講ずべき施策

① 国際競争力の高い魅力ある観光地域の形成

世界水準の DMO の形成、東北の観光復興、文化財・歴史的資源・自然等の地域資源としての活用、景観の保全、国際拠点空港の整備、クルーズ船の受入拡充、地方創生回廊の完備 等

② 観光産業の国際競争力の強化及び観光の振興に寄与する人材の育成

旅行業法の改正を通じた地域独自の旅行商品の創出、民泊サービスへの対応、観光地再生・活性化ファンドの継続的な展開、観光経営人材の育成、宿泊業の生産性向上 等

③ 国際観光の振興

オールジャパンによる訪日プロモーションの実施、ビザの戦略的緩和、最先端技術を活用した出入国審査、通訳ガイドの充実、ランドオペレーター登録制度の導入、通信環境整備 等

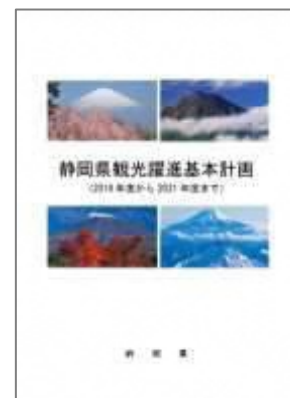
④ 観光旅行の促進のための環境の整備

外国人観光旅行等の災害被害軽減 等

②静岡県観光躍進基本計画

国の動きを踏まえ、県は平成 30 年に観光振興条例に基づき、「静岡県観光躍進基本計画」を策定しました。

基本理念に「『住んでよし』と『訪れてよし』の好循環を生む観光地域づくりによる『心の豊かさ』と『経済的な豊かさ』の実現」を掲げ、「国際競争力の高い観光地域づくり」「観光客の来訪の促進」「観光人材の育成と来訪者の受入環境の整備」の3つの基本方針のもと具体的な施策を展開しています。



静岡県観光躍進基本計画の概要

◆基本方針と具体的な施策展開

1 国際競争力の高い観光地域づくり

- (1) DMOを核とした観光地域づくりの推進
- (2) 本県の魅力を活用したツーリズムの推進
- (3) 伊豆半島ジオパークの活用推進

2 観光客の来訪の促進

- (1) 地域資源を活用した誘客促進
- (2) 静岡県の魅力の情報発信
- (3) 戦略的なインバウンド施策の推進

3 観光人材の育成と来訪者の受入環境の整備

- (1) 観光人材の育成
- (2) ユニバーサルツーリズムの推進
- (3) 安全、安心で快適な観光地域の整備

◆数値目標

目標指標		基準値 (2016 年度)	目標値 (2021 年度)
心の豊かさの実現	本県の旅行に大変満足した旅行者の割合	34.9%	50.0%
	地域への誇り、愛着を持つ県民の割合	81.4% (2017 年度)	90.0%
経済的な豊かさの実現	県内旅行消費額	6,888 億円	7,500 億円
	観光交流客数	1 億 5,294 万人	1 億 7,000 万人
	宿泊客数	1,943 万人泊	2,200 万人泊
	外国人宿泊者数	157 万人泊	300 万人泊
	県内産食材の調達率が 5 割以上の宿泊施設の割合	42.8% (2017 年度)	50.0%

③第2次掛川市総合計画・地域創生総合戦略

独自のまちづくり戦略を長期的視点にたって打ち出していくため、本市の政策の指針として第2次掛川市総合計画(平成 28 年度から 37 年度)を平成 28 年3月に策定しました。

「希望が見えるまち・誰もが住みたくなるまち掛川」を目指して、10年間で重点的に取り組むべきことを「重点施策」と位置付けており、20～30 年を見据えた施策の展開方向は「個別施策」としています。



観光分野の施策

重点施策 市民総ぐるみのおもてなし 観光客誘客促進事業

[具体的な施策]

(1) 外国人観光客誘客の促進

●外国人観光客誘客の促進

- ・外国人が一人歩きできる環境の整備、外国人観光客の滞在日数に見合ったルート等の設定及び PR 等による外国人旅行者の呼び込み、公衆無線LAN (Wi-Fi) 環境整備
- ・外国人のニーズや嗜好の調査研究

(2) 周辺自治体や関係事業者との連携による広域観光のイベント開催・情報発信

●広域観光の情報発信

- ・広域連携協議会等、周辺自治体や関係事業者との連携による各種の魅力的なイベントの開催や情報発信

(3) 地域資源を活用した交流型観光の推進

●世界農業遺産を活用した観光振興

- ・世界農業遺産を活用したグリーンツーリズムの推進
- ・世界農業遺産の PR

●着地型観光メニューの設定

- ・伝統・文化・企業・農業等を活用した体験活動等の着地型観光メニューの設定及び情報発信

(4) 富士山静岡空港からのアクセスの確保

●富士山静岡空港からのアクセスの確保

- ・富士山静岡空港とJR掛川駅を結ぶ交通手段の確保

●災害時に防災拠点となる新東名倉真第2PAの整備と地域振興

- ・倉真第2PAを集客施設及び食糧物資等の供給拠点として整備
- ・地元や周辺地域の資源を活かした着地体験型プログラムと連携した地域振興

[重要業績評価指標 (KPI)]

観光交流客数 平成 31 年度／3,800 千人 平成 37 年度／4,000 千人

個別施策 地域資源を活かした着地型、交流型、広域連携型観光の推進

[施策の方向]

- 観光協会の組織力強化と内部連携の強化
- 掛川の魅力を伝えることのできる人材育成や観光情報発信
- 個々の施設の集客力の強化
- 桜の二大名所の創出

④掛川市シティプロモーション推進計画

シティプロモーションの方向性及び方策を指し示す戦略として「掛川市シティプロモーション推進計画」を平成 30 年 5 月に策定しました。

計画の目的は、「掛川市の認知度向上及び都市イメージの形成・浸透」と、「市民の誇りや愛着心(シビックプライド)の醸成」ととしています。

そのなかで、市民がもつ「わがまち」に対するイメージを表す言葉(ブランドメッセージ)として、「あなたの夢、描いたつづきは掛川で。」を作成し、ターゲットに向けた情報発信と売り込みに取り組んでいます。

次の基本方針と戦略に基づいてシティプロモーションを進めることで、まちの魅力を語る市民を増やし、掛川を売り込みます。

その相乗効果として交流人口の拡大も目指しています。



基本方針と戦略

(1)まちの目指す姿の形成(ブランドイメージの形成)

- ①ブランドイメージの可視化
- ②ブランドメッセージ・ロゴマークの浸透、活用推進によるまちの目指す姿の形成

(2)市民参画の拡大

地域魅力想像サイクルの展開

- ①「地域資源の再発見」
 - ・市民主体による魅力の再発見・共感等
- ②「地域資源の磨き上げ」
 - ・再発見した魅力へのストーリー付け等
- ③魅力(地域資源)の拡散
 - ・インフルエンサーの活用等

(3)協働力による情報発信の強化と売り込み

- ①メディアミックスによる効果的な情報発信と売り込み
 - ・複数のメディア活用
 - ・戦略的な情報発信(誰に、何を、どのように)
- ②協働力による効果的なメディアを活用した売り込み
 - ・魅力動画の作成、プロモーションサイトの充実、インスタによる魅力コンテスト 等

(4)行政のプロモーション機能の強化

- ①庁内におけるブランドメッセージ・ロゴの浸透、活用
- ②各課における市民参画に向けた取り組み支援
- ③各課におけるプロモーション方策の検討

(5)シティプロモーションを支える担い手づくり

- ①市民、企業、大学、行政等との連携
- ②著名人による情報発信への参画

6 市民の意向

1) 市民意識調査

市民の意識や関心の把握のため、平成 29 年度及び平成 30 年度に行った市民意識調査を参考にしました。

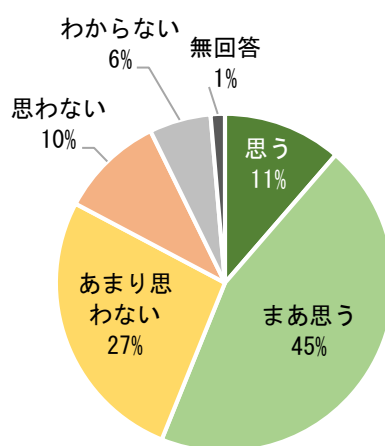
実施概要

方法	実施時期	対象	配布数	回収数	回収率
郵送調査	平成 29 年度	18 歳以上の市民	2,500 通	1,135 通	45.4%
	平成 30 年度			1,173 通	46.9%

①市民のお勧め度合い

市外の人に掛川市をお勧めしたいと思う市民は 56%（「思う」11%+「まあ思う」45%）となっています。

SNS などの発達で、個人の口コミや発信内容が重視されていることから、市民によるまちの情報発信に向けて、まずは市民にまちの魅力に気づき楽しんでもらい、友人や知人にお勧めしたいという気持ちを育むことも大切です。



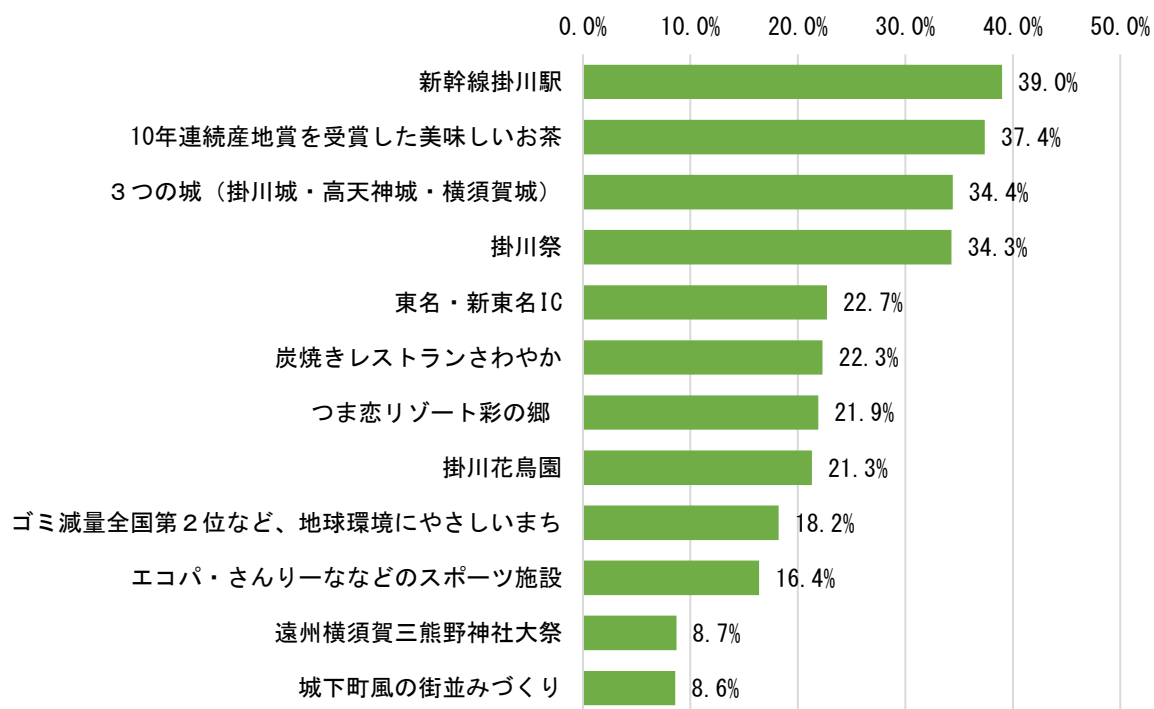
図：市外の人に掛川市をいいところだとお勧めしたいと思いますか

[資料:平成 30 年度市民意識調査]

②市民が思う本市の自慢

本市の自慢について、「新幹線掛川駅」が最も多くの回答を集めており、主な地域資源としては見られなかったものですが、今後の観光の取組への活用を検討する必要があります。

次いで回答が多くみられたのが、「お茶」「3つの城」「掛川祭」で、主な地域資源が市民にとっても自慢できるものとなっていると考えられます。



図：掛川市の自慢できるもの（上位）

[資料:平成 29 年度市民意識調査]

③市民による本市の観光施策の評価

第2次掛川市総合計画に基づく重要プログラムについて、その満足度と優先度を市民に問い、点数化して評価したところ、「観光客の誘客促進」は満足度・優先度がともに低い施策となっています。現状を維持しつつ、市民の不満の要因を把握していく必要があります。

表 プロジェクトに対する満足度と優先度の分析

プロジェクト	分析
中心市街地の活性化と公共交通網の充実	満足度が低く、優先度が高い施策 (サービスの水準が低く、優先度が高いことから、不満の解消に向けて積極的に投資すべき施策)
雇用・就業環境づくりの推進	
地域の子育て力の向上	
企業の子育て力の向上	
結婚・出産・子育て環境の整備	
保育園・幼稚園・小・中学校の教育力の向上	満足度・優先度がともに高い施策 (サービスは一定の水準に至っているが、優先度が高いことから積極的に現状維持する施策)
家庭の子育て力・教育力の向上	
防災対策の強化	
健康づくりの強化	
行財政改革の推進	
観光客の誘客促進	満足度・優先度がともに低い施策 (サービスの水準は低い、優先度も低いことから、市民の不満の要因を把握しながらも、当面、現状を維持する施策)
移住・定住の促進	
商工業の発展	
文化芸術の振興	満足度が高く、優先度が低い施策 (サービスが一定の水準に至っていることから、今後も現状を注視していくことが必要な施策)
企業誘致の推進	
農業ビジネスの推進	
環境にやさしい地域社会の実現	
協働によるまちづくりの深化	

[資料:平成30年度市民意識調査]

2)市民グループインタビューの結果概要

本計画策定に当たり、市民のニーズや提言等を把握し、計画策定に反映させるため、観光に係る活動を行っている市民を対象に、インタビュー調査を行いました。

■実施概要

方法	実施時期	対象
グループインタビュー調査	平成 30 年度 (2018 年 8 月 29 日)	観光に係る施設や団体に所属する 市民8名

主な意見をみると、本市の観光の強みとして、自然・歴史・食の資源が豊かで、市外からの交通アクセス条件が良く、エコパ(p135 参照)等の大規模集客施設を有していることが挙げられます。特に、掛川駅から掛川城までの中心市街地に魅力あるスポットがまとまっていること、住んでいる人の良さや街がきれいなことも特徴と言えます。

一方、課題として、地域資源の情報発信、関係団体の連携に関する意見が多く見られました。

今後の観光振興のアイデア等として、市全体としては、今ある資源を活かしたほどほどの観光振興を目指す一方、駅からお城の間は観光地として注力していったらどうかという意見もありました。また、市民の観光への活用、市内の関係団体の連携や協働の推進も挙げられました。

■ 主な意見（詳細は巻末資料編）

○掛川市の観光の強み・魅力	▲掛川市の観光の弱み・課題	☆今後の観光振興のアイデア等
		・掛川らしいほどほどの観光地づくり ・シティプロモーションと方向を合わせる
<u>自然、歴史、食が豊か</u> ・海も山もあり自然が豊か ・3つの城がある ・歴史、文化が感じられる ・食が豊か	・観光客への情報発信（告知・宣伝・PR、観光パンフレット、SNS やホームページ） ・地域の資源の維持管理 ・温泉があまり活用されていない	・情報発信を工夫する ・周遊コースの情報の整理と充実を図る ・暮らし良さを感じる滞在型観光 ・掛川の食材を使った B 級グルメづくり ・施設や案内板を適切に維持管理する
<u>観光交流の活発化につながる環境がある</u> ・掛川市までの交通アクセスが良い ・大規模な集客施設（エコパ、つま恋リゾート彩の郷）がある ・外国人観光客も来ている	・南部と北部の交通の便が悪い	・ラグビー、オリパラの機会を活かす ・エコパのコンサートやスポーツ大会に来た人を掛川の観光に誘導したい
<u>駅からお城までに魅力がまとまっている</u> ・掛川駅～掛川城周辺は、魅力あるスポットがまとまっていて、歩く楽しさがある	・中心市街地の商店街が衰退	・駅からお城の間は観光地的でも良い ・掛川城周辺の駐車場の再編、活用
<u>住んでいる人の良さ</u> ・人が穏やかで魅力がある ・報徳 ・街がきれい	・おもてなしの意識が低い	・市民が地域の自慢を言えるようにする ・市民を観光に活かす
	・関係団体の連携や情報共有	・市内の連携や協働を進める

7 課題の整理

本市の観光の動向、関連計画、市民の意見等を踏まえて、今後の観光振興の課題として次のことが挙げられます。

1 本市の観光振興の方向性の明確化《全体の方向性》

- ・ 市外からの来訪を促進し、本市の観光を持続的に展開していくためには、観光に関わる主な団体、民間事業者、住民などそれぞれの主体が同じ方向性や目標を持ち、観光に係る諸課題に対応していくことが重要です。
- ・ 掛川駅から掛川城にかけての中心市街地のエリアは、公共交通ネットワークの拠点であるとともに、掛川城はじめ観光交流施設が多く立地し、週末にイベントが開催されることも多く、市内の観光振興の核としてさらに磨き上げることが重要です。
- ・ 郊外では、豊かなライフスタイルを享受できる生活環境があることから、自然、温泉、食、伝統、生活など、地域に根差した資源を活用し、市民が愛着を持って暮らすことができ、観光客もゆっくり滞在できる魅力ある地域づくりが求められます。

2 今ある地域資源の適切な保全とさらなる活用《自然・歴史・文化》

- ・ 本市は、山や海、温泉、四季の花の名所などの自然に恵まれ、サイクリングやトレッキングなどアウトドアレジャーを楽しみに多くの観光客が来ます。
- ・ 戦国時代に3つの城が築かれ、江戸時代には2つの城下町が形成、東海道沿いに2つの宿場町が栄えるなど、固有の歴史を育んできたことから、歴史的建造物や伝統的な活動が多く残されていますので、関連づけたPRや周遊ルート、専門的なガイドの育成により、目的を持った取り組みが推進されます。
- ・ 二の丸美術館などの文化・教養施設のほか、掛川花鳥園や資生堂アートハウス、つま恋リゾート彩の郷など集客力のある民間の観光交流施設も充実していますので、各施設の連携などにより、相乗効果を生み出す事が可能となります。
- ・ 「かけがわ茶エンナーレ」や「遠州横須賀街道ちっちゃな文化展」などのイベントは、新しい客層に本市へ足を運んでもらう機会にもなっていますが、イベントは一過性のものであるため、これを契機としてリピーターをつくる仕掛けが必要です。
- ・ こうした今ある地域資源のなかには、観光客だけでなく、市民にもあまり知られていないものもあります。地域資源として磨き上げや掘り起こしを行い、市民や市内の事業者などが連携し、地域振興に結び付けていくことが課題です。

3 宿泊利用や県外利用の促進、市内での滞在時間の延長〈滞在・周遊〉

- ・ 本市は名古屋、東京といった大都市圏からの交通利便性が高いものの、観光交流客数に占める宿泊客数の割合は低く、観光による地域経済波及効果を高めるためにも、市内での滞在や周遊の時間を延ばすことが課題です。
- ・ ウォーキングによる観光の普及によって、旧東海道への県外からの来訪者も少なくありません。市内の地域資源が分散していることから、各地を徒歩だけでなく、自転車、自動車、公共交通機関でめぐって楽しめるテーマ性のある周遊ルートの構築が必要です。
- ・ 全国的に「温泉旅行」「自然観光」「歴史・文化観光」「グルメ」といった体験型観光のニーズが高まっています。本市の本当の魅力はゆっくり滞在して見えてくることも多いため、本市の自然、歴史・文化、食などの資源を活用した体験プログラムの充実や PR をしていく必要があります。
- ・ 周辺市町と一体となった広域連携による観光プロモーション活動の展開も重要です。

4 市内の周遊を促す交通・情報インフラの充実〈インフラ〉

- ・ 市内での滞在時間を延ばすには、拠点となる鉄道駅から各観光地までの交通の整備が必要となります。レンタサイクル、路線バス、タクシーといった掛川市の地域性を活かした移動手段を検討し、観光客だけでなく、市民も利用できるものとして、サービスの拡充を図る必要があります。
- ・ スムーズに市内を巡ることができるよう、わかりやすいマップや案内サイン、無料 Wi-Fi 等の整備や維持管理が重要です。
- ・ 鉄道の玄関口である掛川駅には観光案内所があるものの、通年多くの人が訪れる掛川城周辺には自家用車や大型バスで来訪される方に対して、市内の観光案内の拠点や駐車場など観光客を迎え入れる環境が十分とは言えない状況です。
- ・ 外国人観光客の増加に対応していくためにも、富士山静岡空港をさらに活用し、アクセスの拡充に努めるほか、案内サインの多言語化など進める必要があります。

5 観光地域としての美しい空間形成《良好な景観》

- ・ 主要な地域資源である歴史的建造物や自然緑地を保全していくとともに、市内の開発動向に合わせた良好なまちなみを維持していく必要があります。
- ・ ごみのないきれいなまちを維持するため、企業、団体、個人等による清掃活動の推進も大切です。
- ・ 四季の変化を感じる花の名所、富士山やお城といった眺望スポットなど、思わず写真を撮りたくなる場所を地域資源として活用していくことが求められます。

6 観光と農業、商工の連携強化《産業活性》

- ・ 産業については、市内で従事している就業者が最も多い産業は製造業で、なかには工場見学のできる場所や観光に資する施設を有している企業もあります。また、掛川の深蒸し茶(p137 参照)は全国的に有名であり、茶草場農法が世界農業遺産となったことで一層お茶のまちとして知名度が上がっています。その他の農業も盛んで、食材を豊富に取りそろえることができるとともに、野菜や果実を摘み取る観光農園も展開されています。
- ・ 市内には特色のある店舗があり、店主が講師となった「まちゼミ」(p137 参照)展開していることから、個店の魅力は地域資源になり得るものです。
- ・ こうした特色ある産業や地域資源を活用した観光を活発化させていくとともに、観光に結びつけた市内各産業の活性化を推進していくことが大切です。

7 観光客のニーズに応じた情報発信《情報発信》

- ・ 本市は、住むまち、働くまちとしてのイメージがあり、本市の観光について知ってもらいきっかけとして市内の拠点やインターネット等を用いた情報発信が必要になってきます。近年は観光情報に対する観光客の志向やニーズは変化してきており、カテゴリで区分された記事情報よりも実用的な情報や写真、動画が好まれるようになっていきます。さらに、歴史・文化的な背景やストーリーなど、深い魅力を訴えることが観光の動機につながる可能性があります。
- ・ こうしたことから、観光客のニーズに応じた情報発信を随時研究しながら、魅力ある情報発信に努める必要があります。海外個人旅行の増加、ラグビーワールドカップ 2019 や東京オリンピック・パラリンピック 2020 の好機を踏まえ、国内のみならず国外も意識していくことが求められます。

8 市民ぐるみの観光まちづくりの推進《市民参画・連携》

- ・ メジャーな観光地では味わえない、その地域の魅力を深く知ることができる「着地型観光」が期待されているなか、いきいきと自らの地域の自慢や魅力を語れる市民の存在がますます大切になっています。シティプロモーションの取組と連携して、掛川ファンを増やすため、観光を含めまちづくりへの市民参画の拡大を図る必要があります。
- ・ ボランティア団体や地区などの観光に関するまちづくり活動が今後も継続するよう、既存の団体活動の継続や充実、団体同士の情報共有や連携を促す仕組みが必要です。
- ・ 本市の観光振興は、行政だけでなく、観光協会や商工会議所をはじめ多くの関係団体や民間事業者などによって支えられてきました。今後、それぞれの枠にとらわれずより一体となってプロモーションなど活動に取り組んでいかなければなりません。

9 掛川市庁内の横断的な連携・調整の強化《庁内の連携》

- ・ 本市の観光には、観光業だけでなく幅広い産業の活発化、観光を支えるインフラの整備、市民や観光客を対象としたシティプロモーションといった施策が関係します。観光振興を進めるには、庁内関係部局が目的意識を持った連携や調整を強化し、施策を推進していく必要があります。
- ・ 関係団体や市民団体などが主体的に行う活動に対して、庁内の関係部局が連携を図りながらPRするなどサポートすることも重要です。